

新編知立市史ってなに？

文化課文化振興係 ☎0566-83-1133

皆さまこんにちは。入庁2年目の市史編さん事業の担当をしております伊藤です。発刊まで様々なことがありましたが、無事『新編知立市史2 通史編 近代・現代』を刊行することができました。これも皆さま方のご協力・応援のおかげでございます。改めまして、お礼申し上げます。

ところで皆さま、『新編知立市史』についてどの程度知っていますでしょうか。私は、市史編さん事業に係るまで、恥ずかしながら「市史」の存在すら知りませんでした。ひょっとしたら私のような方がいるかなということで、今回の教育委員会だよりでは『新編知立市史』について手短かに紹介させていただきます。

○『新編知立市史』について

これまでの人々の営みやまちの歴史は、各地に散らばっている古文書や古記録、写真といった史資料から紐解かれ、市史として描かれていきます。そのため、史資料があつてこそ、はじめて市史を描くことができるのです。そのような貴重な史資料を収集・整理、保存を行い、そのうえで知立市域の歴史・文化・自然などの調査・研究成果をまとめた本が、『新編知立市史』となります。これまで『新編知立市史』は通史編・資料編・別巻の計10巻を刊行することで知立の歴史書として頒布しております。

資料編・別巻は、例えばですが江戸時代のミミズがはったような文字（＝くずし字）で書かれたもの（史料）を現在の私たちが読めるよう楷書体で翻刻したもの、遺跡から出てきた出土品、寺社などに残された美術工芸品や仏像など（資料）の歴史を描くにあたり根拠となるもの（史資料）を集成した本です。テーマごとでまとめられているため、自分の興味あるテーマに特化して調べる際に活躍すること間違いありません。

通史編は資料編・別巻で集成された史資料をもとに、時系列順に落とし込み、図版等で補いながら知立の歴史を描いた本となっております。そのため、現在に至るまでの知立を網羅的に知りたい方には通史編が適しています。通史編には本文内に“(近世82)”のような注釈が入っており、これは資料編近世の82番資料が論拠であることを示しています。入門編として、まずは通史編を読んでもらい、もっと知りたいことは注釈を手がかりに資料編・別巻に載っている史資料に触れ、理解を深めてもらえれば、上級編的な『新編知立市史』の使い方になります。ぜひ、上級編的な活用で知立市の今・昔をもっと知ってもらえればと思います。

○最後に

資料編・通史編は『新編知立市史2 通史編 近代・現代』の刊行をもって全て刊行できました。しかし、令和5年度末刊行予定の別巻が残っており、ただいま編さん作業中です。市域の特徴をビジュアル重視で紹介し、お手軽に読んでもらえるようにと努めています。そちらを楽しみにしてもらいながらも、既刊の『新編知立市史』をぜひ、読んでいただければと願っております。『新編知立市史』の概要についてはQRコードからご覧ください。私の拙い説明で恐縮ですが、最後まで一読していただきありがとうございます。今後とも、当市の文化行政へのご協力をよろしくお願いいたします。

